

お願い
この説明書は実際にご使用になれる方のお手元にも
必ず届くようお取り計らいください。

電子式速度検出器

LYSE-**

取扱説明書

このたび坂本電機製速度検出器をご採用いただきありがとうございます。
この説明書は、速度検出器の取扱、保守について述べたものですから、
ご使用前にご熟読の上、据えつけ、保守、点検などに正しくご活用ください。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください

(株)坂本電機製作所

本社・和白工場 〒811-0202 福岡市東区和白3丁目27-55

TEL:(092)606-2731 FAX:(092)608-1984

津屋崎工場・器具営業 〒811-3304 福津市津屋崎7丁目23-40

TEL:(0940)72-4193 FAX:(0940)72-4197

大阪営業所 〒536-0022 大阪市城東区永田4丁目15-24

TEL:(06)6961-0084 FAX:(06)6961-0085

1、ご購入時の点検について

ご注文通りの製品が届きましたか。輸送中の振動、事故等で破損していないかご確認ください。

- (1) 輸送中に破損したところはないか。
外装、入力軸、ねじ部等が曲がっているところはないか。
- (2) ご注文通りの製品かどうか、銘板でご確認ください。
形式、定格等がご注文通りかをご確認ください。
万一、不具合などがありましたらご注文先にご連絡ください。

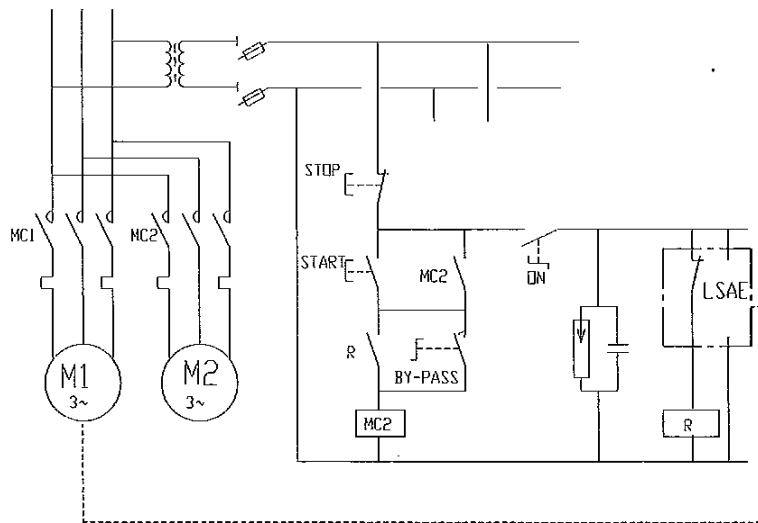
2、据付けについて

- (1) 強固で平坦な面に取付けてください。
- (2) 取付ボルト(供給外)で締め付けて回り止めを施してください。
- (3) 据付け場所が浸水や塵埃の浸入の恐れがある場合、据付け途中若しくは以前に放置することは避けてください。正常な取付け状態及びケーブル引込み状態で保護構造機能が有効です。
- (4) 屋外に設置する場合、ケーブル引込口のくぼみを樹脂等で充填し、呼吸作用による浸水を防止することをお奨めます。
- (5) 電源側にインバーター等のノイズ発生源が接続された場合やアーク溶接等の強いノイズ発生源が近接した場合、一般の電子機器と同様にノイズにより影響を受ける可能性があります。ノイズ環境に対応した遮断や遮蔽を電線路や周辺に施してください。
- (6) 軸連結形のLYSE-AIL-05Lの軸を連結する場合、相手軸との芯ぶれが無いようにご注意ください。自在継ぎ手、ギヤ・スプロケットで伝達する場合でも50N(5kgf)以上の荷重が軸端に加わらないようにしてください。
- (7) 本機器の外装接合部は全てパッキンにて防塵性を保持しております。不要な分解は避けてください。また、外線を接続する場合は産業安全研究技術指針RIIS-TR-82-1に準じて工事を行う必要があります。その他の取扱についても本指針(粉塵防爆機器)に準ずる必要がありますのでご注意ください。

3、配線について

- (1) カバーを外しパネル上の端子台に外線を接続します。端子(M4)への接続は絶縁スリーブ付き圧着端子を使用するか、裸圧着端子をご使用の場合は圧着部を絶縁チューブで保護してください。
- (2) 屋外に設置される場合、呼吸作用による浸水を防止するために、ケーブル引出口のねじ結合部やケーブル穴等のくぼみをコーキングすることをお奨めます。
- (3) 電線路が長い場合、外部からの誘導や電線のインピーダンスの影響が考えられます。電線路の遮蔽を顧慮するほかに、リレー回路の電線路は100m以下にしてください。
- (4) 配線後、パネル設定を行った後は、パッキンを確認しカバーを確実に取付けてください。
- (5) 出力リレーで直接、電磁接触器や大型のリレーを駆動することは出来ません。小型リレーを介して駆動してください。
- (6) 高圧線、動力線と本検出器の電線路が近接する場合、鋼製電線管等で遮蔽してください。インバーターやモーター等のノイズ発生源が電源側に存在する場合、ノイズフィルターやサージ吸収回路を設けてください。
- (7) 配線工事は前記2、(7)の技術指針について熟知された方の管理下で実施してください。

図3-1 接続例



4、設定について

表4-1に設定内容を示します。ご注文内容で設定値を指定された場合は必要ありません。

表4-1 設定項目

設定項目	設定方法	設定範囲	(デフォルト値)／備考
上限回転数	HIGH側デジタルスイッチ設定後電源ON	5～3000 r/min	(1000r/min)、 設定 0000で無効
下限回転数	LOW側デジタルスイッチを設定後電源ON	5～3000 r/min	(100r/min)、 設定 0000で無効
起動補償 (タイマー)	①電源ON後、[SET]釦を押しLED表示の10の位を点滅させる。 ②[UP]釦を押し10の位を設定し[SET]釦を押し。 ③同様に1の位、少数第1位を設定。 ④[SET]釦を押しして完了。	0.0～99.9秒	(5秒) タイマーが動作している間は、----が表示されます。
検出値設定範囲	標準： 5r/min～3000r/min 内蔵検出片：10 (低速の場合は、ご注文時ご指定ください。) 参考 検出片の設定方法(出荷時、セットしてあります。) ①[UP]釦を押しながら[SET]釦を押し。 ②[UP]釦を押し毎に、検出片数が表示されますので、内蔵検出片に合わせてください。 ③[SET]釦を押ししてセットします。		

[ベルトコンベヤの速度低下検出例]

手順

- (1) 定格速度を十分に越えた値をデジタルスイッチ [HIGH] 側で入力します。例：「1000」
- (2) 検出速度をデジタルスイッチ [LOW] に入力します。例：「180」
- (3) 電源を入れます。
- (4) 起動補償時間を設定します。
(デフォルト値 5秒)
- (5) 試運転

[検出値変更手順・注意点]

- (1) 電源を切ります。
- (2) デップスイッチを変更する値にします。
- (3) 電源を入れます。
・タイマー動作中は―――が表示されます。

※電源を切らないで変更する場合

- (1) デップスイッチを変更する値にします。
- (2) SIGNAL端子間をショート（無電圧）します。
・タイマー動作中は―――が表示されます。

図4-1 設定パネル

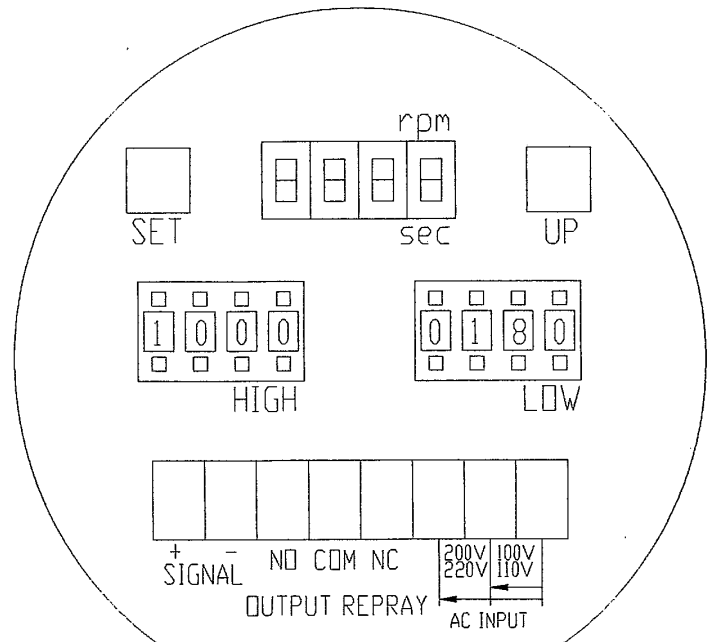
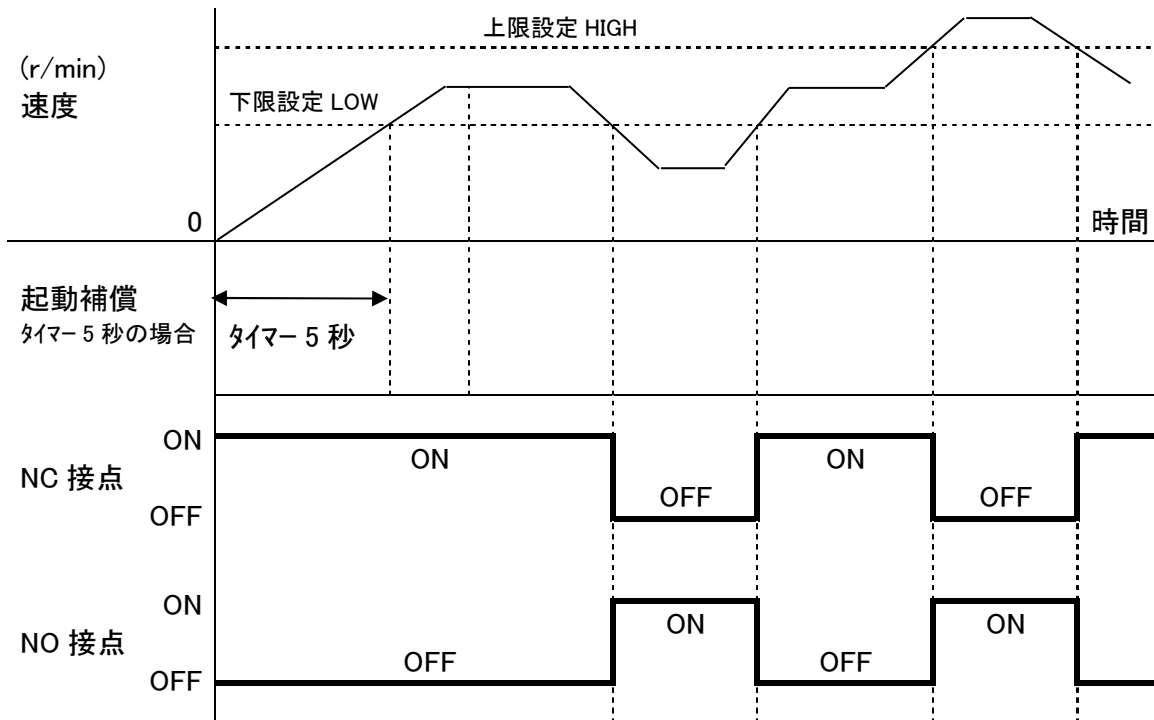


図 4-2 タイムチャート



出力リレー動作

	電源OFF	電源ON～タイマー動作	動作中
NC	OFF	ON	正常：ON 検出：OFF
NO	OFF	OFF	正常：OFF 検出：ON

5、保守点検について

(1) 点検時期

使用頻度、使用条件、環境により点検時期は左右されますが、少なくとも1ヶ月毎に点検してください。

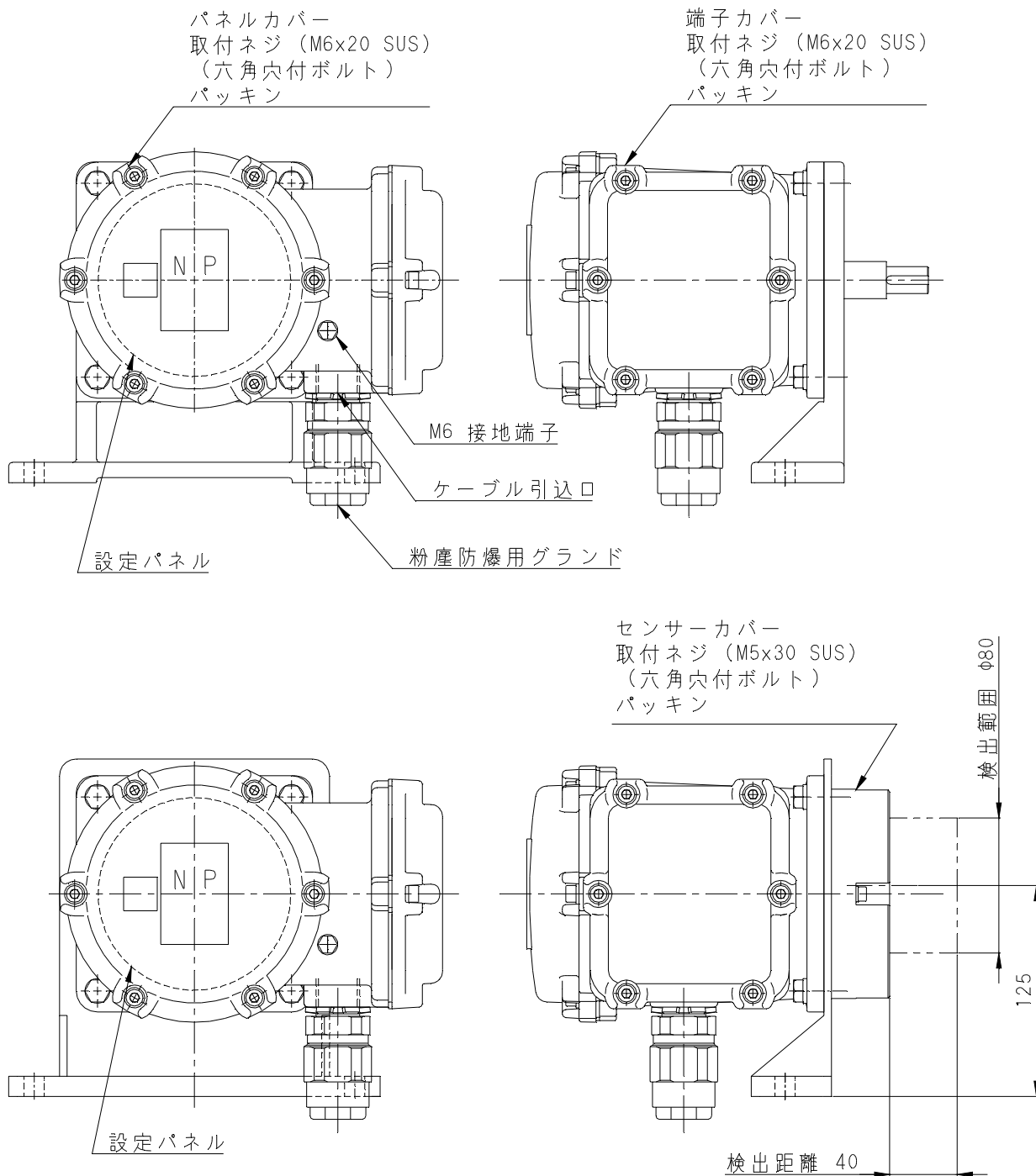
(2) 点検内容

点検項目	処置方法	備考
外観の傷、凹み、曲がりの有無	使用可か否かを判定し、不可若しくは判定不能なら現品交換	
塗装のはげ、錆の有無	損傷が軽ければ錆除去後、補修塗装 判定が困難なら現品交換	
内部点検で浸水の有無	浸水跡が在る場合、現品交換か 軽傷なら乾燥させ、浸水原因を調べ除去	
パッキン類の損傷・劣化の有無 カバー接合面の損傷	少しでも損傷があれば交換	付図1参照
取付ねじ、連結部ねじ等の緩み	増し締め、緩み止め（固着剤）	
引込みケーブルの損傷	損傷が在る場合、再配線	
絶縁抵抗	出力端子と非充電金属部 500Vメガにて 測定 外部電線路を外し10MΩ以下なら交換	
動作試験	試運転での動作確認	
その他の使用者決定事項		

完了時、点検箇所を再確認しカバーを取付けてください。

付図1 LYSE—**構造図

注) 保守部品は他の形式の場合と共通です。



LYSE-S01 構造図

品番	名称	備考 (手配コード)	品番	名称	備考 (手配コード)
1	ケース		11	端子台	
2	カバー		12		
3	パッキン	7402858-1	13		
4	端子箱カバー	7300586-1	14	六角穴付ボルト	M6 x 20
5	パッキン	7402859-1	15	六角穴付ボルト	M5 x 30
6	センサーカバー	7302333-1	16		
7	パッキン	7408493-1	17		
8	スタンド	7302381-A	18		
9	近接センサー	Ni50-C80-VN4X2	19		
10	LSAE基板		20		

